

「学校関係者評価報告書」の公表について

本校では、以前より教育や業務の改善を図るために、自己点検・評価に取り組んでおります。平成25年度から、卒業生を含め本校に関係の深い企業関連の方々を中心に「学校関係者評価委員会」を設置し、ご意見等をお聞きして、教育活動や学校運営に反映させてまいりました。

本年度は、学校関係者評価委員会を2019年5月22日に開催しました。その結果を、保護者や地域社会の皆様方に対し、説明責任を果たし、理解と協力を得るために「学校関係者評価委員会報告書」としてここに公表いたします。

学校関係者評価委員会では、本校が行った自己点検評価や学校運営上の重点項目に対して、多くのご意見やご助言をいただきました。本校では、これらのご指導項目を真摯に受け止め、より良い教育、学校運営を実現するために、教職員一同努力して組織的・継続的な改善を続けて参ります。

学校に対するご支援や条件整備等の充実に対して、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

2019年7月
学校法人京都中央学院
Y I C 京都ペット総合専門学校
校長 杉山 征人

学校法人京都中央学院 Y I C 京都ペット総合専門学校

学校関係者評価委員会

任期：2019年4月1日～2021年3月31日

(敬称略)

選出区分	氏名	所属等
業界団体	柴山 隆史	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長
業界団体	森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長
業界団体	新谷 嘉成	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 副会長
業界企業	田川 直樹	株式会社ひごペットフレンドリー 取締役
卒業生	丸山 帆夏	ダクタリ動物病院 京都医療センター

学校事務局	氏名	所属等
学 校	杉山 征人	Y I C 京都ペット総合専門学校 校 長
学 校	細田 元一	Y I C 京都ペット総合専門学校 副校長
学 校	内田 幸治	Y I C 京都ペット総合専門学校 管理部長
学 校	山根 大助	Y I C 京都ペット総合専門学校 経営推進室長

2019年度 第1回学校関係者評価委員会 議事録

場 所：YIC 京都ペット総合専門学校 1号館3階131教室

日 時：2019年5月22日（水） 13:30～15:00

参加委員：公益社団法人京都市獣医師会：村田様（森様代理）

一般社団法人ジャパンケネルクラブ：新谷様

ダクタリ動物病院 京都医療センター（卒業生）：丸山様

事務局：杉山校長、細田副校長、内田管理部長、山根アメーバ経営推進室長

欠 席：公益社団法人滋賀県獣医師会：柴山様、株式会社ひごペットフレンズリー：山野様

ワグザバー：飛田キャリアサポート室長

議 事 録：山根

1. 校長あいさつ
2. 教職員紹介
3. 関係者評価委員紹介
4. 定員数確認、委員長の選出（副校長）
 - ・ 2名欠席で過半数を満たし本委員会は成立する。
 - ・ 委員長に新谷委員を推薦、全員の賛同により承認された。
5. 配布資料等確認
6. 平成30年度の自己点検評価結果について（副校長）
 - ・ 自己点検評価結果の説明に先立ち、本校の概要に関して校長から説明があった。
 - ・ 「平成30年度 YIC 京都ペット総合専門学校 自己点検・評価結果」に基づき、以下の項目の説明があった。
 - ① 1. 教育理念・目標
 - ② 2. 学校運営
 - ③ 7. 学生の受入れ募集
 - ④ 8. 教育の内部保証システム
 - ⑤ 9. 財務
 - ⑥ 10. 社会貢献・地域貢献
 - ⑦ 11. 国際交流

7. 2019年度の取り組みへの意見等

大項目名	項目番号	ご意見（委員）	回答（事務局）
-	-	35歳時点でのキャリアを考えるのは非常に良い設定である。モデルケースの確立が出来れば現場で働いている人にとっても非常に役に立つ。学校、臨床現場ともに取組まないといけない課題である。	35歳時点で中核的専門人材として活躍するキャリアステップを描いてはいるが、モデルケースの確立までには至っていない。
1. 教育理念・目標	1-2	エキゾチックアニマルが増加し、診療機会が増加している。カリキュラムとして増やすことは難しいかもしれないが少しでもエキゾチックアニマルと触れ合う機会を作っていただきたい。	学校として対応を検討する。
1. 教育理念・目標	1-3	世界的には繁殖された犬・ねこの販売禁止という法律もできつつある。学生が社会に旅立ち就職する際に次のステージに向けた取り組みが重要と感じる。業界が大きく変化する可能性が高い。学校としてどのような方向性で人材育成するのがポイントとなるのではないか。	学校として対応を検討する。
7. 学生の受入れ募集	7-7	現場で働く上で難しい問題として動物アレルギーがある。実際に接触してから初めてわかることもある。また、程度の問題もあるがコミュニケーション能力が一番の課題。	ペット分野は学力よりもコミュニケーションが課題。学生本人が喋るのではなく保護者が喋るケースも多い。
8. 教育の内部質保証システム	8-10	現場は人手不足の状況である。YICは動物看護師資格の国家資格化をうけて養成施設として学校を運営していくのか。	養成施設としての学校を目指して運営していく。
11. 国際交流	11-1	自動車分野での留学生は多いがペット分野でも取り組んでみてはどうか。国として留学生にシフトしているのでもそういう情報を発信するだけでも面白いかもしれない。HPの英語表記等。	現時点でも留学生が数名在学している。時刻に帰ってペット関連の仕事をするという。また、趣味としても注目されている。海外の富裕層に対して宣伝を計画している。

8. 今後の予定（副校長）

年1回の実施のため、2019年度の委員会はこれで終了。

※委員会開催必要がある場合はお声掛けする。

以 上